

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	令和2年10月25日	外部評価結果確定日	令和3年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=4291500058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和2年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は天井が高く開放的な造りになっている。玄関を出ると目の前には青い海が広がり、遠くに五島列島の島々を望め、美しい朝日を拝むことができる。
基本理念である「笑顔のたえない楽しく暖かく家」を念頭に置き、その実現に向け職員で協力し合い努力している。
地域柄、ご利用者様・ご家族・地域の方・職員が知り合いや顔馴染みであることが多く、親しみやすい関係が築きやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、ご利用者様の意見の反映の取組みとして、暖家では予防策を講じた上で、職員と一緒に法要やお墓参りに出かけている。法要は地域のお寺で営まれるため、ご利用者様の関係継続の支援にも繋がっている。このようなきめの細かい個別的な対応は、ご利用者様を主体として考える理事長の想いや、ご利用者様が今まで送ってきた生活を可能な限り存続できるように支援を行うという、いわば、暖家の理念の実践にも繋がっている。最後に「笑いの絶えない楽しく暖かい家」を目指した職員全員の日々の献身的な取組みは、ご利用者様に「毎日、笑って穏やかな表情になっていただく」という強い信念が原動力であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和し共有、再確認している。笑顔で接するよう心掛けている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出や人との交流等、楽しみに制限がかかる中、暖家では理念の実践を可能な限り具現化するため、状況を見ながら個別対応で外出したり、室内でのレクリエーション等の楽しみ方を今まで以上にバージョンアップした。このような理念の実践に向けた取組みについては、職員間で協議を重ねて実行に繋げているとのことであった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や運動会、買い物や美容室に出掛けるなど日常的な交流に努めていたが、今年度は新型コロナウイルス感染の予防により面会中止、外出自粛が続く思うように交流できなかった。手作りマスクや畑で育てた花など差し入れて頂け有難かった。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外部との接触に制限がかかっているため、思うように地域との交流はできなかった。このような状況下においても、暖家と定期的に交流のあった方からマスクが届いたり、暖家の中には入れないまでも、外の窓拭きや庭掃除をしてくれた中学生ボランティアの受け入れを行った。もう少しは積極的な交流ができないと思われるが、また以前の日常のように、地域と暖家が交流できる日を待ちわびているとのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室などは開催していないが、相談を受けることがありアドバイスしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しているが今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から書面開催にしている。意見や要望は寄せられていない。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、集合型の会議が開催できないため、回覧型で実施しているとのことであった。運営状況の報告や質問等の投げかけを各方面に行っているが、特に返答があるわけでもないとのことであった。今後、返答しやすい環境を作るため、例えばヒヤリハットやアクシデント報告の事例を回覧して、意見を尋ねてみる等、意見を引き出すことに注力していく方針であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者との連絡は運営推進会議が中心となっているが、協力関係は築かれている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、運営推進会議が開催できないため、今までのように定期的な関わりは持てていない状況である。このような状況下ではあるが、法人の理事長が役所を出向いて意見交換したり、情報を共有したりして関係性を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、適切なケアを行えるよう定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開催し取り組んでいる。	暖家の職員で構成されている「身体拘束・虐待防止委員会」を中心として、身体拘束をしないケアへの取り組みを行っている。この委員会は3カ月に1回の頻度で開催されており、暖家で不適切なケアにつながるような支援が行われていないか職員間で確認している。また、新聞やテレビで公表された高齢者への虐待等の情報を共有する等、自分たちで啓発活動を行っている。現在、暖家では「優しい声掛け・優しい接し方」を重点目標に掲げて、職員がお互いに「是は是、非は非」を言い合えるような関係作りに精進している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開催。具体的な事例を用いたりしながら学び、虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会が待てているとは言えないので、理解を深められるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用開始前に面談や、施設見学をして頂き不安を軽減できるよう努めている。契約時には重要事項説明書を用いて説明し納得・理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議が新型コロナウイルス感染予防の観点から書面開催となり面会も制限があるため意見や要望を直接聞く機会は減っている。暖家だよりに苦情窓口を掲載し周知を図っている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日常的な面会や運営推進会議、家族会等のように、職員がご家族と直接お会いして意見を交わすことはできなかった。その代替として、以前から作成していた「暖家便り」に、ご利用者様の毎月の様子を特に詳しく記すことで、少しでもご家族に安心してもらえるように工夫している。また、ご利用者様やご家族からの提案に対して、できる限りの対応は行っており、例えばお墓参りや法要の目的で職員がお寺に同行したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は会議の場で聞くようにしている。出された意見は管理者から理事長へと上げている。	暖家では日常的な意見交換以外に、毎月定期的に関行されている職員会議や、処遇会議の場において、職員の意見を聴く機会を設けている。運営面に関して、職員より特に要望等は上がってきていないとのことであったが、慢性的な職員不足については、法人全体の共通課題として、理事長を中心に解決に向けた取組み持続的にを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格(介護福祉士、介護支援専門員等)に応じて手当が付いたり、正社員として雇用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	コロナ禍で研修の機会も減っている。今年 度から施設内研修の時間を設けケアの質を 向上させていく取り組みを始めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	コロナ禍で交流は自粛している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談したり施設を見学して頂くこと で少しでも不安が軽減されるよう努めている 。また入居後は笑顔で接し困ったことや不安 を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居前の面談時または電話がかかって来た 時等に要望や疑問を聞いたり、入居後は暖 家だより等で様子を伝えることで安心して頂 けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスを必要としているか話を 聞き提供出来る事と出来ない事があること を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で自室や洗面所の掃除、洗濯物 を干したりたたんだりといった家事をして頂 いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	毎月暖家だよりを個別に郵送し近況を報告 し共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の自粛、面会の制限により馴染みの人に会ったり、出掛ける機会は無くなっている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、面会や人と接する場への外出の制限をせざるを得ず、思うような関係継続の支援ができていないとのことであった。このような環境の中で、暖家では密にならないように配慮した上で、ご利用者様の自宅周辺へドライブに出かけたり、「暖家便り」をご家族等に郵送する等、職員が可能な限りの関係継続の支援を継続的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事をしたりレクや体操等に参加して頂くことで交流を図っている。食後、元気なご利用者様が自分でトレイを下げるが出来ない方の分も片付けたり、関わり支えあっている様子がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても同じ地域の住民として関係は続くため、会えば挨拶したり近況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様同士の会話や職員との会話から希望を把握したり上手く表せない方の場合は行動や表情を観察し汲み取るよう努めている。	職員は日常生活の中で、ご利用者様に常に声をかけて会話することを心掛けている。特に、入浴中の会話やレクレーション、外出時のご利用者様の反応をよく観察して思いを汲み取るように努めている。ご利用者様の思いや意向は、職員間で日常的に話しあい共有して介護計画に繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族、在宅のケアマネから生活歴や暮らし方サービス利用時の経過等を伺ったりショートステイ利用時の様子は養寿園の職員やケアマネから聞く等して把握に努めている。職員が顔馴染みの場合も多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護支援経過や各種チェック表、申し送りノートで共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれの担当者がモニタリングし、全員でカンファレンスを行っている。話し合いの場にご利用者様やご家族は同席されないが意見書を提出して頂いたり面会時等に話を伺い意見や希望を計画に反映している。	毎日の支援内容を「介護支援経過」に記録し、それを基にご利用者様の担当職員がモニタリング（ニーズ、目標、実施状況、今後の方向性、職員のサービス内容への希望等）している。ご家族の意向は、事前に「意見書」（介護計画についてのご家族の思いや考えを記入してもらう）で把握して、処遇会議にてモニタリングとご家族の意向を基に、介護計画について意見を出し合い原案を作成している。ご家族に介護計画原案を、計画の根拠と共に郵送し同意を得て本案としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議や処遇会議、個人記録、各種チェック表、申し送りノートを活用し現状の把握と共有に努め実践や計画の見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や行事の際にご家族の送迎を行ったり島外の病院に入院、受診する際、港まで送迎したり時には同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との馴染みの関係は築かれており町民の一人として地域に支えられている。ボランティアの受け入れは現在中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は島内に1か所しかなく入居後も引き続きかかりつけ医に診てもらっている。必要に応じて整形外科や循環器など専門外来を受診している。結果は暖家だよりや電話で報告している。	ご利用者様やご家族が希望する医療を、引き続き受けられるように支援している。受診は職員が対応し、主治医の指示により必要な診療科目も受診している。受診内容は、変更等があれば「申し送りノート」に記入し職員間で共有している。ご家族には電話や「暖家だより」で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいなかったため体調が変化した場合は直接診療所に連絡し早めに受診している。同法人施設の看護師とは相談が出来る体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所に入院した際は様子を見に行き医師や看護師から病状や退院の目途について情報を得ている。退院後の注意点等の指示も受けている。島外の医療機関に入院した場合はソーシャルワーカーと電話で連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りや重度化した時の対応、施設で出来る事と出来ない事をご家族に説明している。	入所時に、看取りや重症化した場合の暖家での対応を説明し、ご利用者様やご家族の同意を得ている。協力医療機関とは24時間365日連絡可能な体制が整っている。緊急事態の対応マニュアルを台所に掲示し、少しの変化でも、自己判断せずにホーム長に連絡し主治医の指示を仰ぐことを徹底している。ご利用者様の状態変化時は、主治医、ご家族、ホーム長で話し合い、職員会議等で情報共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導でAEDの使用方法や心肺蘇生の方法を学んだ。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。そのうち1回は消防署や養寿園と合同で訓練を行い協力体制を築いている。今年度はコロナにより2回とも単独で実施した。自主検査チェック表を用いて火気関係のチェックを行い20時23時に戸締り、火の元を確認している。	年2回、夜間想定 of 避難訓練を継続して実施している。島内防災無線により地域（消防分団に法人職員が参加）の協力が得られる体制が整っている。地域の特性として、津波発生時の暖家としての対応を、法人全体として検討している。今年は台風接近時に、同法人施設に避難した。避難時の連絡や経路はフローチャート（日勤、夜勤帯）を作成掲示し、緊急時に備えている。飲料水、米、パン等の備品を3日分準備し、消費期限はホーム長が管理している。	台風接近時に同法人施設に避難したことを基に、より迅速に対応できるよう、自然災害時の避難訓練や救出訓練を実施することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならないようにし、ご利用者様の思いをそのまま受け入れ否定しないように心掛けている。	「ご利用者様主体で考える」という理事長の思いに沿って、全職員は、優しい言葉で、やさしく接することを心掛けている。理事長やホーム長は、会議や日常生活の中で職員に常に話をする事により、理事長の思いは職員に浸透している。日常的な確認と改善に向けた暖家としての取り組みを確認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすいように言葉かけや待つ姿勢で自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間など出来る限り一人一人のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自分で選べる方はご本人に任せ困難な場合はその方らしい服装を職員が選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や地元で採れた野菜や海産物をメニューに取り入れたり、外にテーブルを出し海を眺めながら食事をしたり楽しめる工夫している。	地域の人から、新米や野菜の差し入れがあり、季節に応じて献立やおやつを工夫している。ご利用者様の好みを聞いて食材を変更する、食事形態や食べやすいスプーンを検討する等、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。ご利用者様は、状態に応じてテーブル拭きや下膳、野菜の下ごしらえを手伝っている。天気の良い日は庭で食事を、会話が弾むように席を配慮する等、食事を楽しむことができるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重を測定、毎食の食事摂取量や1日の水分摂取量を記録し十分な量が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。ご利用者様の力に応じて声掛けや見守り、介助し清潔を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、パターンの把握に努め声掛け誘導することで失敗なく過ごせるよう、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。毎朝蒸しタオルで清拭し、下着をかえて頂いている。	排泄チェックを30分おきに行い、トイレに誘導することで、ご利用者様の現状維持に努めている。ご利用者様の状況を処遇会議で話し合い、ポータブルトイレを居室に設置することで、トイレ回数や失禁が減少する等、個別の排泄支援を行っている。また、「排泄チェック表」と「睡眠パターン表」を一緒に組み込み、眠剤服用時の睡眠変化やトイレ回数減少による睡眠時間の変化が一目で分かるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳、朝食時にヤクルトを飲んで頂いている。1日の水分摂取量が1,000cc以上になるよう食事時以外にもこまめに提供している。昼食前に歩行訓練や体操を実施し便秘予防に努めている。医師に相談し下剤での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数や時間帯は決まっているが少しでも気持ちよく入浴して頂けるように浴室や脱衣所の温度を調節したり、入る順番に配慮している。羞恥心に配慮して同性が介助したり、ゆっくり会話したり個々に合わせて対応している。	ご利用者様の好み(一番風呂が好き、お湯の温度、入浴時間など)に応じて個別の入浴支援を行っている。脱衣室や浴室にエアコンを設置し、身体的、精神的負担軽減を図り、柚子湯や入浴剤で楽しんで頂けるように工夫している。入浴後の個々に応じた保湿や水分補給にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具はご自宅から使い慣れた物を持って来て頂いている。昼間も自由に休んで頂いているが昼夜逆転しないようレクや日光浴の声かけも行っている。室温や明るさを調整し快適に眠れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめてファイルし種類や用法・用量を確認できるようにしている。薬の変更、臨時薬の処方し送りノートにも記入し周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	亡くなったご家族の写真や御位牌を持って来られた方が毎朝お供えを上げたり、日課だった墓参りやお寺参りに出掛けられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りやドライブ、散歩には出掛けしているが自宅への外泊・外出、買い物等人が多い場所への外出は自粛して頂いている。	今年は、コロナの影響で買い物など実施できない状況だが、ご利用者様の希望に沿って、外部の方と接触しない限られた範囲でドライブやお寺参り、お墓参りを行っている。日常的な外出が難しい分、室内レクリエーション(風船バレー、カラオケ)で楽しんで頂けるように日々努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお金を事務所で保管・管理している。数名の方はご自分で管理し、買い物に出掛けた際はご自身で支払っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族や友人に電話し、会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやトイレ、洗面所などこまめに掃除し清潔や感染予防に努めている。ホールはクリスマスツリーや雛人形など季節ごとの飾りつけや、ご利用者様の写真を掲示し楽しんで頂いている。	広く開放的なホールで、毎日、歩行訓練や風船バレー、カラオケなどを楽しんでいる。ご利用者様と一緒に季節の飾り物を作成し、写真を掲示することで、会話が弾むように工夫している。コロナ禍の中、テーブルや椅子、手すり、トイレの掃除やアルコール消毒に配慮し、加湿器を新たに購入する等、感染症予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広く開放的なホールになっており、ソファや椅子など思い思いの場所で気の合う方同士で座り会話されている。玄関にもベンチや椅子を用意し海や五島の島々を眺められるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具、TV等を持ち込んで頂いている。ご位牌やご家族の写真、ドライブや散歩で摘んだ花を飾ったりそれぞれの部屋が違った雰囲気になっている。	各居室には、ご利用者様の馴染みの物を置き、お位牌や写真に、毎朝、ご飯やお茶をお供えている。各居室に洗面所が設置され、ご利用者様のペースに合わせて口腔ケアを行っている。日中の大半をホールで過ごすことが多いため、居室ではゆっくりと休んで頂けるように各居室の温度、湿度調整等に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの入り口に張り紙をして分かりやすいように工夫している。食卓の椅子は2種類用意しご利用者様の状態に合わせて使い分けている。		